

# 「平和の新婦人なくしたくない」と班復活

千葉・船橋支部 前原・中の木班



選挙クイズでワイワイとおしゃべり

戦後・被爆80年前に、会員の「平和への思い」から班活動を再開させた千葉・船橋支部前原・中の木班を紹介します。

「選挙で変える！」紙面でおしゃべり

学びたい」と近隣の班を招いて開いた選挙力をフエが、「選挙の争点や市政の問題がよくわ

かった」と好評でした。

6月の班会はしんぶんタイムで「選挙で変える」クイズ(6月28日号)をする



宮 喜美子さん

から支部に相談がありました。

支部が呼びかけ、班長を含め数人で集まりました。自身の戦争体験を伝え、平和の大事さをみんなと考えていきたいとの宮さんの熱い思いに、子どもたちの未来を守ろうと、「戦争を語る会」を開くことに。チラシ作りや会場設営には、班や支部、宮さんの家族などみんなが協力し、当日は、会員や自

の高齢化や支部委員の体調不良などが重なり、解散の危機にありました。その話を聞いた最年長の会員、宮喜美子さん(92)が「新婦人をなくすわけにはいかない」と奮起。「世界で戦争が繰り返され、危機感を感じる。今の日本を見ていると戦争に向かっているようにとても心配。こんなときだからこそ新婦人が大事。みんな話したい」と、宮さん

この攻撃をイスラエルとイランの「戦争を終わらせた。広島、長崎と本質的に同じこと」と正当化したことは、絶対に許せません。

8月3日〜9日の原水爆禁止2025年世界大会は、核兵器のな

仲間ふやして元氣に

この企画をきっかけに、「私、これができるよ」と自分から班の運営に関わる会員が増えました。班長は「相談できる相手もなく新婦人の活動に積極的になれなかったけれど、役割分担できるようになって気持ちが楽になった」と話します。

「みんなでできることをしていこう」と、昨年2回の「平和の会」を成功させ、班会も毎月開くようになっていきます。折り紙小組も再開し、季節行事の作品などを作っています。

指先を使い脳も活性化、完成品をみんなで見せ合い、文壇に飾るなど毎回好評です。「平和の会」に参加した人を小組に誘って、「ステキな作品ができてうれしい」と入会。「仲間が増える」と元気になるね」「また新しい人を迎えたい」と意欲的です。

## 「平和の波」地域から多彩に声あげ行動

主張

核兵器禁止条約が国連で採択されて8年。署名した国は94、批准した国は73となり、第79回国連総会では条約推進決議が127カ国の賛成で採択されるなど、世界の大きな流れになっています。

一方、ロシアによるウクライナ侵略と核兵器使用の威嚇、ガザでのジェノサイドを続けるイスラエルがイランの核施設を攻撃しアメリカも軍事攻撃するなど、国連憲章と国際法を踏みしめる行為で危機が高まっています。核施設への攻撃は広範な放射能汚染という大惨事になりかねず、トランプ米大統領が

この攻撃をイスラエルとイランの「戦争を終わらせた。広島、長崎と本質的に同じこと」と正当化したことは、絶対に許せません。

8月3日〜9日の原水爆禁止2025年世界大会は、核兵器のな

参加を求め、核兵器使用許さない、廃絶を行動します。

新婦人は毎年、お寺や教会に申し入れて平和の鐘つき、「原爆の絵」展や、被爆者のお話を聞くつどいなど多彩にとりくんでいます。こうした地域での取り組みが、被爆者とともに核兵器禁止条約をつくった力です。「平和の波」を地域に広げ、唯一の戦争被爆国日本こそ、核兵器禁止条約に参加をと署名で迫っていきましょう。新婦人パネル・ポスターや入会申込書付きりーフを活用し、平和の仲間を増やしましょう。



夏らしい朝顔をこわに(折り紙小組)

「みんなでできることをしていこう」と、昨年2回の「平和の会」を成功させ、班会も毎月開くようになっていきます。折り紙小組も再開し、季節行事の作品などを作っています。

指先を使い脳も活性化、完成品をみんなで見せ合い、文壇に飾るなど毎回好評です。「平和の会」に参加した人を小組に誘って、「ステキな作品ができてうれしい」と入会。「仲間が増える」と元気になるね」「また新しい人を迎えたい」と意欲的です。

「みんなでできることをしていこう」と、昨年2回の「平和の会」を成功させ、班会も毎月開くようになっていきます。折り紙小組も再開し、季節行事の作品などを作っています。

指先を使い脳も活性化、完成品をみんなで見せ合い、文壇に飾るなど毎回好評です。「平和の会」に参加した人を小組に誘って、「ステキな作品ができてうれしい」と入会。「仲間が増える」と元気になるね」「また新しい人を迎えたい」と意欲的です。

## いま教室で子どもたちは



公立小学校教諭 藪内 恵

私の学校では、個人面談が終わり、今では夏休み中に面談を行う学校も増えているようです。面談で話題の中心になるのは、やはり「友だち関係」です。誰とどんなことをしているのか、親の目の届かない場所での言動を心配するのは自然なこと。

ものなのに、子どもも大人もそのことを忘れがちです。

たとえば、よくケンカをする子は、友だちとうまく関係を築くことが「できない」のではなく、まだ「慣れていない」だけ。海外で突然ハグされて戸惑うように、文化や環境に応じたやりとりには経験が必要

ある年、友だちとのコミュニケーションがうまくいかず、面談で悩みを話してくださった保護者がいました。善悪の判断よりも先に手が出てしまう、言葉がきつ、そんな様子が見られる子どももいました。

「失敗や誤解OK」という姿勢が大切です。子どもたちがうまくいかなかった経験を「技術が足りなかっただけ」と捉え、大人と一緒に振り返り、練習できるように支えること。それが、友だち関係を通じて育つ力につながります。よい人間関係が学力の伸びにも影響するという研究もあります。うまくいかないことを能力や性格のせいにはせず、環境と経験を通して育つ力として受け止め、多くのチャンスを支えていきたいですね。

誤解を恐れずに言えば、「コミュニケーション」は能力ではありません。よく「コミュニケーションが苦手」「対人能力がない」と誤解されがちですが、実はこれは「技術」なのです。練習すれば身につく

「失敗や誤解OK」という姿勢が大切です。子どもたちがうまくいかなかった経験を「技術が足りなかっただけ」と捉え、大人と一緒に振り返り、練習できるように支えること。それが、友だち関係を通じて育つ力につながります。よい人間関係が学力の伸びにも影響するという研究もあります。うまくいかないことを能力や性格のせいにはせず、環境と経験を通して育つ力として受け止め、多くのチャンスを支えていきたいですね。



空には虹が

写真は、家庭にかかった放課後の虹。同僚みんなで仕事の手を止めて見ました。(今回は8月9日号)